

知っておきたい子どもとネット・スマホの話

インターネット及びスマートフォンの利用が年々低年齢化し、子どもによる利用が一般化しつつある反面、ネット・スマホ依存の問題や、書き込みを巡ってのトラブルなど、ネットに関する問題が若年層にまで及び、深刻化してきています。こうした現状の中、子どもたちが、ネットリテラシーや情報モラルを身につけ、スマホ時代を賢く安全に生き抜くための教育や支援に、積極的に取り組まれている兵庫県立大学の竹内和雄先生にお話を伺いました。

■ ネット・スマホの問題に取り組み始めた理由

今から10年以上前になりますが、私は寝屋川市内の中学校で勤務し、生徒指導を担当していました。新入生を迎えて新年度が始まった直後から、生徒たちの間で非常に多くのトラブルが発生し、その対応に追われたことがありました。暴力行為が発生する一方、器物破損行為が非常に多く、こうしたトラブルがなぜこうも急激に増えてきたのか、その原因を調べていくと、SNSの利用など、ネット上でのトラブルに起因するものが多いということがわかってきました。

そこで、生徒会役員の生徒たちと一緒に対策を考え、ネット上には相手の気持ちを考えて投稿しようといった基本的なルールを作り、生徒たちと共に取り組んだ結果、トラブルを減少させることができました。

幸い、私の勤務する学校では問題を沈静化することができましたが、決して1つの学校だけの問題ではなく、ネットの普及とともに今後この問題が広がっていくことは明らかでした。そのため、市の教育委員会での勤務を経て、さらに大学で専門に研究を進め取り組むこととなりました。

■ 研究の中でみえてきたこと

当初は、ネットそのものに問題があると思っていたのですが、調査研究を進めていくと、ネットで問題を起こす子に多い共通点として、家庭内で何らかの問題があったり、友だち関係がうまくいっていないなど、ネットの問題以前に、毎日の実生活の問題、心の問題を抱

えている場合が多いということがわかってきました。

ネットという表面的なところだけで判断せずに、そういった子どもたちの日常生活におけるしんどさの部分にどれだけ入り込んで、関わりサポートしていけるかということが重要であると、今は考えています。

■ 子どもの居場所とネットについて

地域で安全にのびのびと遊ぶことのできる場が減ってきていることで、子どもたちは、仕方なしに家で過ごし、ネットや電子ゲームを長時間することに繋がっているようにも思っています。

これは実際にあった話ですが、地域住民から、公園で子どもがサッカーをし、迷惑しているので注意して欲しい、といった苦情をいただいたことがありました。確かにその公園でサッカーをすることは禁止されていたのですが、サッカーを止めさせただけでは納得してもらえず、集まるとゴミを散らかす、騒がしいなどの理由で、公園で集まることにさえも難色を示されるケースがありました。こうした現場に直面すると、子どもの遊び方の問題ではなく、集まって自由に遊ぶことのできる場所を十分に確保できない、大人の問題ではないかと感じざるを得ません。

興味深い事例として、『ネット絶ちキャンプ』での様子をお話しします。これは、昨年、一昨年に、兵庫県の子どもたちを対象に実施した事業ですが、日常生活でスマホを何時間も手放せず、スマホ依存傾向にある子どもたちを4泊5日で離島に連れて行きました。食事は、すべて自炊で準備し、カヌーやシュノーケリングをしたり、仲間と協力しながら火おこしにチャレンジしたりと、体験メニューを多数用意しつつ、これまでの自分の生活や将来について考えさせました。そういったプログラムを組む中で、「スマホ部屋」なるものを設け、毎日1時間だけは「スマホ部屋」に行っ、スマホや通信ゲームをしてもよいことにしました。初めは何人かの子が「スマホ部屋」を利用していましたが、キャンプの最終日に



は、誰も行くことなく、参加者同士で集まり、トランプや鬼ごっこなど、学年も違う子どもたちが、みんな仲良く一緒に遊んでいるのが印象的でした。環境を整えることができれば、必ずしも子どもたちが

スマホを最優先するわけではないことを示す一例だと思います。

■子どものスマホ所持適齢期について

年齢で示すことができるわけではないのですが、その子どもが一人で安全に繁華街を歩くことができるのであれば、持たせても良いと思います。つまり判断の基準として、仮に繁華街で声を掛けて誘ってくる大人がいたとしても、善悪を判断し、危険を感知できる子どもであれば、スマホの利用に関してもリスクが少ないのではないかと考えています。

一方、データでみると、小6から中1に上がるタイミングで約3割所持率が上がるのですが、この時期は反抗期を迎える頃でもあることから、反抗期を迎える前のしつけやすい時期に持たせて、親が使い方を教え、子どもと一緒に使用時間など家庭のルールを決めるのが良い、と考える人が増えています。ただし、スマホ依存が増加している現状では、小学生から持たせることには、たとえルールを決めたとしても懸念があり、何歳から持たせるのが良いかは、私自身も答えはでていません。いずれにせよ、大人が一方的に決めるのではなく、子どもにも考えさせ、納得して守ることができる使い方をさせることが大事だと思います。

■ネット、スマホ利用で注意すべき3点

①まずは依存の問題です。子どもたちだけでなく、大人も一緒に時間管理をしないと、親も子も毎日ネットに夢中になっているといったことが現実起きています。

②次に、ネットを利用することの危険性を教えることが必要です。ネットの利用については、多くの人が奔放であるように感じるのですが、ネットの出会い系サイトを通じて知り合った若者が、9人殺害された神奈川県座

間での事件は、記憶に新しいところです。会ったこともない他人と、いとも簡単に繋がることのできるネットは、大変便利であることも事実ですが、一方で、不適切な使い方が引き起こす様々な危険性について、しっかりと教えることが非常に大切です。これからの時代は、ネット、スマホを上手に賢く使うために、いわば“正しく怖がる”ことを学ぶことは重要だと思います。

③さらに、もう何年も前から繰り返されていますが、ネットの炎上問題も未だに続いています。仲間内で盛り上がっているつもりでも、ネットで発信することの影響は大きく、一度発信した情報は拡散し、完全に消しさることはできません。

加えて、自分が被害者になるだけでなく、加害者にも簡単になり得ることを理解しなければなりません。ネットは匿名でも発信できますが、実際には誰がしたことかすぐにわかります。「ばれなければよい」などと浅はかに考えて、最後には「こんなはずじゃなかった」と後悔する子が後を絶ちません。

■リアルな問題として

根本は、ネットの問題ではなく、“リアル”の問題だということです。つまり、現実社会で許されないことは、当然ネット上であっても許されません。相手の気持ちを考えること、たとえ匿名での発信であったとしても、想像力を働かせ、ネットの向こう側に、実際に存在する生身の相手のことを考える。デジタル社会だからこそ、リアルな場面で考え、学ぶことが必要であると考えています。

ネット・スマホの問題は、もはや親の責任だけに任せるのではなく、学校で、そして社会で受け持たなければならない状況であると考えています。法律の整備も含め、社会全体でどう取り組んでいくのか、本気で考えなければならない問題だと思います。

Profile

竹内 和雄 さん（表紙の人）

○兵庫県立大学環境人間学部 准教授

○一般社団法人ソーシャルメディア研究会 代表